

会 報

1991年度

1. 春季大会記事

1991年度春季大会は、6月16日(日)に札幌天神山国際ハウスにおいて次の通り開催された(参加者33名)。

●研究発表

内田 実(札幌大学):支庁、市町村の境界と農業地域の境界について

曾根 敏雄(北海道大学低温科学研究所):置戸町鹿の子ダム付近の永久凍土

山本 憲志郎(学術振興会研究員):北海道、日高山脈北部における周水河性斜面堆積物の地形学的研究

武田 泉(北海道大学・院)・山本 憲志郎(学術振興会研究員):北海道の観光形態と自然公園政策

武田 泉(北海道大学・院):住宅団地建設による大都市近郊開拓地の変容 —住宅公園進出に伴う大八洲開拓の一部移転を事例として—

●大会記念講演

演者:レナード・カマリング氏

(アラスカ大学博物館研究員)

演題:「アラスカのエスキモーの生活」

(ビデオ使用)

カマリング氏は、全米でも著名なドキュメント映像作家でもあり、長らくアラスカのエヌウエット民族の生活と教育についてドキュメント映像を制作してこられた。今回は南富良野町での小学校取材のため来道されたのを機会に、普段見る機会の少ないアラスカの自然とエヌウエット民族の生活について、シャープなビデオ映像をもとに講演いただいた。

●総会

1990年度決算報告、1991年度予算案および事業計画が提出され、承認された。また、任期満了に伴う役員改選が行われ、新役員が選出された。

1990年度決算

(収入)

繰越金 84,053円

会費収入 423,200

雑収入 165,384

計 672,637

(雑収入内訳:広告料 90,000 会誌

売却 42,000 寄付金 33,300 預金

利子 84)

(支出)

会誌(No.65) 400,000

事務費 16,772

通信費 46,320

謝礼 10,000

大会補助 8,672

会議費 500

予備費 0

計 482,264

次年度繰越金: 190,373円

1991年度予算案

(収入)

繰越金 190,373円

会費収入 250,000

雑収入 100,000

計 540,373

(支出)

会誌(No.66)印刷費 410,000

事務費 15,000

通信費 50,000

謝礼 10,000

大会補助 15,000

会議費 5,000

予備費 35,373

計 540,373

新役員(1991~1992年度)

会長 羽田野正隆

副会長 山下 克彦

〃 山内 正明

会計監査 木村 光夫

〃 大森 好男

また、新会長より幹事が委嘱され、幹事会互選の結果、次の役割分担となった。

幹事長 岩崎 一孝

幹事 大内 定(庶務・会計)

山本 博(〃)

高平 順夫(集会)

氷見山幸夫(〃)

進藤 賢一(編集)

下川 和夫(〃)

曾根 敏雄(〃)

小松原 尚(〃)

なお、1992年度より山本 博幹事の転出(四国農業試験場)に伴い、野中健一新会員(北海道大学文学部)

が幹事に委嘱され、庶務・会計を分担することとなった。

2. 秋季大会記事

1991年度秋季大会は、10月13日（日）に巡検を中心に、次のテーマとコースにより開催された（参加者18名）。

- テーマ「近郊10万都市・江別市を探る」
- コース：江別市コミュニティセンター（中央公民館）前集合→神社山（内陸砂丘）→弾薬庫→旧市街→郷土資料館→榎本公園→工業団地→屯田兵屋→昼食（「遠州」）→野幌公民館→グリーンモールふれあいの道→情報図書館→野幌運動公園→北海道情報技術研究所→雪印種苗株式会社技術研究所→酪農学園大学と畜舎→大麻駅解散
- 案内者：内田 淳一（元当別高校長）、津田 佳吾（酪農学園大学）

巡検の趣旨は、従来とかく札幌のベッドタウンとしての位置づけが強かった江別市について、近年、高度情報集積都市、学園都市を目指し、またこれらの特性を生かした工業の誘致など新しい都市づくりに力点を置いていることから、この観点でのこの都市の最近の地域変化を探ろうというものであった。

巡検は、大きめのマイクロバスで巡り、まず神社山での内陸砂丘と旧野幌屯田弾薬庫跡の史跡を見学、次に江別郷土資料館に展示の歴史資料を見たあと、江別工業団地組合を訪問。組合役員の方より、江別工業団地の業種、誘致状況、今後の開発計画を伺った。江別市は高度情報技術都市、また住宅都市としても町村牧場移転の跡地利用など今後も発展の素地が大きいことから、工業も田園都市にふさわしい高度技術を応用した業種の誘致に力を入れているとのことだった。

昼食後、コンピュータによる検索システムやA/V機器による資料展示など最新の情報管理システムを備えた江別市立情報図書館を見学。日曜日もある、子供連れの市民の利用が目立った。このあと、'89年の「はまなす」国体のおりに建設され、各種の競技会場となった道立野幌運動公園を見学。広々とした丘に建設された屋内プールや各種の競技場は、道内のほか全国レベルの大会にも利用されているという。運動公園見学後、北海道情報大学構内や雪印種苗株式会社技術研究所前を通過して（建物内は、日曜日のため見学できなかった）酪農学園大学へ向かった。

酪農学園大学では、研究のほか学生実習でも使用されている畜舎と牛乳加工工場（牛乳とバター、チーズの酪製品は酪農学園大学生協で販売）を見学。コンパクトな施設ながら研究と実習によく活用され、しかも学生による自主的な運営がなされているとのことだった。

午後4時大麻駅にて解散。幸い穏やかな秋の日和に恵まれ、最近の新しい江別市の地域開発の一端をみることでよかったと思う。

ご説明いただいた江別工業団地および酪農学園大学の各位、およびご案内いただいた内田淳一先生、津田佳吾先生に感謝申し上げます。

3. その他

●会員消息（会誌65号掲載以降分、住所は会員名簿に掲載、以下順不同）

入 会：高橋伸幸（北海学園大学教養部）、橋本勇一郎（女満別町立女満別小学校）、野中健一（北海道大学文学部）、榊原正文（札幌真栄 高校）、花岡正光（北海道理蔵文化財センター）、山本耕三（広島大学・院）、北守司（札幌市立南の沢小学校）、松井裕治（札幌市立しらかば台小学校）、内田隆（道立札幌北高校（非））

所属変更：青山健三（駒沢大学北海道教養部→（株）ランドデザイン研究所）、阿部一真（札幌市立栄南中学校→同・新陵中学校）、板本賢一（北海道教育庁日高教育局→同・胆振教育局）、飯田精一（北海道教育大学附属札幌中学校→札幌市教育研究所）、大森好男（道立北広島西高校退職）、奥平理（道立函館中部高校定時制→同・全日制）片岡昭夫（札幌啓成高校退職）、鴨志田勇（道立千歳北陽高校→札幌創成高校）、黒田隆司（北海道釧路土木現業所→同・旭川土木現業所）、佐々木三千男（道立霧達布高校→同・豊浦高校）、武田英俊（道立釧路東高校→同・苫小牧東高校）、大丸裕武（農林水産省林業試験場→同・森林総合研究所東北支所）、寺谷亮司（北海道大学文学部→愛媛大学教養部）、鳥居栄一郎（北海道測量専門学校→）、土井時久（釧路公立大学経済学部→北海道大学農学部）、中本憲治（㈱北海道開発コンサルタント→北海道文理科短期大学）、那須野照豊（道立由仁商業高校→同・美唄南高校）、成田知弘（道立釧路江南高校→同・野幌高校）、信岡貢（札幌市立定山溪小学校→同・平岸高台小学校）、橋本敏昭（札幌市立上野幌中学校→北海道教育大学附属札幌中学校）、浜本武司（北海道教育庁学校教育部→同・上川教育局）、廣瀬隆人（北海道砂川少年自然の家→北海道教育庁生涯教育部）、堀江実（㈱朝日住建札幌支店→同・ILC事業本部）、松本光（道立美瑛高校→同・札幌東高校）、山本憲志郎（北海道大学・院→学術振興会研究員）、山本博（北海道大学大学院環境

科学研究科→農林水産省四国農業試験場), 吉岡
宏高 (株日本甜菜精糖芽室工場→同・開発部),
米地文夫 (東北大学理学部→岩手大学教育学
部), 渡辺茂蔵 (東北学院大学経済学部退職),
武石文人 (札幌学院大学→東海大学付属望星高
校(通))

退 会: 澤田芳一 (道立弟子屈高校退職), 石倉大裕 (道
都短期大学退職), 堀道明, 松本主司 (札幌市立
藻岩高校), 米浪信男 (旭川大学退職), 谷昌一
(枝幸町立德志別小学校), 茂木重人 (標茶町立
弥栄小学校)

- 学会よりの主な会誌配布先 (交換も含む) 日本地理学会,
人文地理学会, 東北地理学会, 福島地理学会, 北海道立
文書館, 道立図書館北方資料室, 北大図書館北方資料室,
北海道教育大本部図書館, 札幌大図書館, 北海道開拓記
念館資料室, 北海道地下資源調査所, 古今書院編集部,
シカゴ大学極東文化研究所資料室, 東京都立図書館, 国
立国会図書館

◎ 学会事務局からのお願い

●会費納入のお願い

1992年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員に
は, 納入につき特段のご協力をお願い申し上げます。納入
額は, 1992年度春季大会会告通知に同封してお知らせして
おります。なお, 行き違いですすでに納入済みの際はご容赦
下さい。

- 所属先, 自宅住所の変更があった会員には, それぞれの
住所, 電話番号をお書き添えの上, 随時事務局までご連絡
下さい。